

「香港中文大学サマースクール参加報告書」

京都大学教育学部1年 松岡巧

・学習成果

将来中国語圏の大学に交換留学に行きたいと考えていた私にとって、今回のサマープログラムは京都大学に入学して始めた中国語の能力を向上させる良い機会だと感じ応募をした。実際に3週間という時間を香港で過ごしてみて、中国語の学習における成果は以下の3点に集約することができる。

- 1, 文法能力の向上...1 回生前期では中国語における文法事項のおよそ半分を勉強した。従って香港中文大学での授業では前期では習わなかった文法事項（例えば「我学中文的很好」や、「从香港到日本要走四个小时」など）も多く登場し、たくさんのことが吸収できた。メンバーの中には後期の教科書を使って予習をしている人もおり、非常に有意義であると感じた。
- 2, 単語能力の向上...授業で使った教科書に出てくる単語（马马虎虎, 机场）、香港ならではの単語や（沙田, 九龙）、授業中の雑談の上で先生が教えてくれた単語（瑞士, 潮湿）など、初めて見る単語も数多く登場し、単語能力の向上に繋がった。
- 3, リスニング能力、スピーキング能力の向上...授業は普通話か、新しい内容や難しい内容は英語で行われたので、自然とリスニング能力が向上した。宿題でもリスニング課題が多く出され、これらはおよそ京都大学の第二外国語授業の課題よりも話す速度よりも早いので良いリスニング練習の機会となった。また、授業中は何回も繰り返しフレーズを発音したり、パソコンに向かって録音をして添削してもらうなどしたので、正しい発音を身につけることが出来たように思う。実際香港や深圳の町中でも聞き取れたり、喋った言葉が通じたりすることがあった。

・海外での経験

一週間以上の海外での滞在は今回が3度目であり、慣れもあったせいか体調には特に変化がなかった。以下日常生活で私が香港に行く前に気になっていたことについて述べる。

- 1, 食事...朝ごはんはスーパーなどで購入したパンやバナナを食べていた。昼は大学内に多くある食堂を使っていたが、電車に乗って外で食べている人もいた。夜は街へ出て食べるが多かった。食事内容について、昼はチャーハンや酸辣湯麺、ローストグースなどを食べていた。その後に毎日タピオカミルクティーを飲むのが私自身の楽しみであった。しかし大学内の食堂の評判は全体的に良くなかった。夜は町の大衆食堂やレストランなど、香港らしい料理を楽しんだ。豚の丸焼きや鳥の丸焼きは見た目もインパクトがあった。一方で雲吞麺やお粥などの庶民的な料理も大層美味しかった。日本料理は殆ど食べなかった。香港は見る所、食べる所、食べるところが沢山あるので是非厚いガイドブックを持っていくことをおすすめしたい。
- 2, 寮での生活...部屋は2人部屋である。ハンガーは寮に少し有った。洗濯機が地下にあり一応洗剤もおいてあり、乾燥機もあった。洗濯にはオクトパスカード（日本で言う Suica や ICOCA）が必要である。トイレにはトイレットペーパーが無いが、大学から一つ支給される。風呂はなく、シャワーがあるのみである。シャンプー、石鹸等は持参しなければならない。大学内には Wi-Fi がある。その他ジムや卓球台などもある（京大のメンバーは毎日卓球を大いに楽しんでた）。寮以外ではテニスやスカッシュなども楽しめる。
- 3, 移動手段など...香港中文大学は山の斜面にあり、無料シャトルバスが定期的に出ているのでそれで移動する。街へ出るには大学駅という駅から電車に乗れば良い。
- 4, 治安、大学外について...治安は悪くはない。普通に生きてればモノを盗まれたりはしないが、外国の移民が多く日曜日などはビル街にダンボールを敷いてたむろっている。大学内でもそうだが香港人は皆広東語を話すので普通語を勉強しても特にレストランでは何を言っているのか全くわからない。しかしこちらの普通語はなんとか通じる（しかし返ってくる言葉が理解できないので結局コミュニケーションは難しい）。
- 5, 授業後、休日、香港以外の場所について...授業後は外に行ってお飯を食べたり観光をしたりすることが多かった。休日は大学の用意してくれたアクティビティに参加する人もいた。日曜日は完全にフリーであったので澳門や深圳に行ったりした。深圳は場所によっては怖いと感じるところもあったので、一人で行動しないほうが良い。しかし深圳は中文大学から近い上、物価が香港の10分の1であったりするので一度は行ってみたいほうが良いと思う。

・プログラム内容

私は Level 1 の Upper Class で授業を受けていた。授業があるのは平日のみである。午前中は 9:30~12:15 だが、だいたい 12:00 には終わっていた。主に文法について勉強する。課文という会話形式の文章があり、そこに出てくる文法事項や単語を習う。そしてそのフレーズを使って隣の人と会話したり、自分で文章を作ったりした。文法の勉強とはいえ、「話すこと」に重点を置いた授業であるように感じた。だいたい 10:15 と 11:15 くらいに休憩

が入る。ところで香港はどこでもそうだが建物内が非常に寒いので上着必須である。外は暑い、寒がりな方は長ズボンのほうが良いかもしれない。2時間の昼休みをはさみ、午後は14:30から17:15であった。しかしこれもだいたい17:00には終わっていた。休憩が15:15、16:15くらいにあった(先生が「休息一下」というのを皆心待ちにしていた)。午後はいわゆる演習の授業であり、午前中よりもさらにスピーキングとリスニングに力を入れた内容となっていた。課文を単に読んだり、フレーズをリピートするだけではなく、課文の内容を絵にした、一枚の画像を見て中国語でストーリーを話したり、パソコンについてのマイクで別の席に座っている人と中国語であるテーマに従って会話をしたりなど、面白い学習方法をたくさん取り入れていた。

宿題もある程度あった。文法の方の宿題はあるテーマに従って文章を書いたり、文章を読んだあとの正誤問題、穴抜きになったところにフレーズを当てはめるなどの問題があった。演習の方はリスニングの正誤問題や、正しい答えを言っている選択肢を選ぶなどの問題があった。全体的に最初は少し難し目かと思ったが、慣れると案外気楽に授業を受けることが出来た。第二外国語で中国語を選択したことがある人はこのLevel1のUpper Classから上のクラスで勉強し始めて差し支えないと思う。もし自分にクラスの難易度が合わないと感じたら最初の2日で変更することができる。京大グループでは9人中私を含めて5人がクラス変更を行った。

・進路への影響、国際理解への意欲、次の海外留学について

最初にも書いたように、元々中国語圏の大学に交換留学に行きたいと考えていた私は、今回のプログラムは中国語能力の向上を助けるだけではなく、交換留学に向けてのモチベーションの向上にも一役買うのではないかと考えて応募を決意した。実際に3週間現地に身をおいてみて、交換留学に行ってみたいという気持ちはますます強くなった。というのも、例えば香港と澳門と深圳では雰囲気もまるで違い、この違いはやはり中国の微妙な状況の上に成り立っているのであるということも薄々感じられた。そしてその「微妙な状況」をもっと生で感じてみたくなったのである。

また現地のローカルな場所に行ってみて、「国際理解」と言えるような経験もあった。例えば大埔は香港の地元の街と言えるような場所であるが、八百屋ではドリアンがどっさり積み上がって売られていた。店では必ず客は熱いお湯をお椀や箸にかけて消毒する。深圳では手足を切り落とした物乞いがいた。このようなことは実際に行ってみないとわからないことであろう。

またその一方で、このサマープログラムの参加者の7,8割が日本からの大学生であったのは少し残念と言えるかもしれない。特に東京の大学からやってきた日本人が多かった。やはり日本人は日本人でかたまりがちであるから、何か国際理解のきっかけを逃した場面もあったかもしれない。ただ、西洋から学びに来た人たちともある程度コミュニケーションが取れたことも良かった。やはり世界の標準語は英語であると感じたし、今回の京大の参加者は皆英語が良く出来たのでとても頼もしかった。

次の留学についてもまた、春休みのスプリングプログラムに参加してみたいと思っている。中国語能力が上がったことは確かだが、まだまだ初級の初級である。後期も努力を重ね、春休みはさらに上のレベルでの中国語学習ができたと思う。

最後に、今回の京都大学の参加者は非常に仲がよく、ほとんど行動を共にしていた。彼らと一緒に参加できたことは大変光栄であったと思う。下は1回生、上は修士2回生という幅広い世代のメンバーとの関わりを通して、中国語以外のことも沢山吸収することが出来た。非常に有意義なプログラムであったと確信している。本当にありがとうございました。